

雪道走行社内研修 in 乗鞍・ダイナランド

12月26日午前6時

運行管理者2名、班長2名を指導者として、若手(年齢は内諸)を中心に総勢22名が参加。大型観光バス(全長12m)と中型観光バス(同9m)の2台に分乗して、日タク観光バス本社を出発!!

今回は大型に乗務出来ない人にも研修をしてもらおうと思い、中型車での研修も用意しました。



東海北陸道関ICから高速に乗り、最初の目的地：乗鞍青年自然の家を目指します。

ひるがの高原SAにて休憩。路面にも雪があります。絶好のスキー研修日和となりました。

県道462号線沿いのチェーン脱着場です。

この地点では路面に雪は無いですが、ここで着けるのが基本となります。

理由は以下の通りですが、こういった事を知っておかないと後で大変な事になります。

- 理由① この先にチェーンを脱着出来る場所が無い
- 理由② この先で雪の量が増える
- 理由③ この先に勾配の急な上り坂がある



班長に聞きながらチェーンの付け方を学んでいきます。

今回は研修ですが、現場ではお客様を乗せた状態でチェーンを付けなければなりません。確実に付けることは勿論ですが、待ち時間を少なくすることも大切です。運転手さんの腕の見せどころですね。

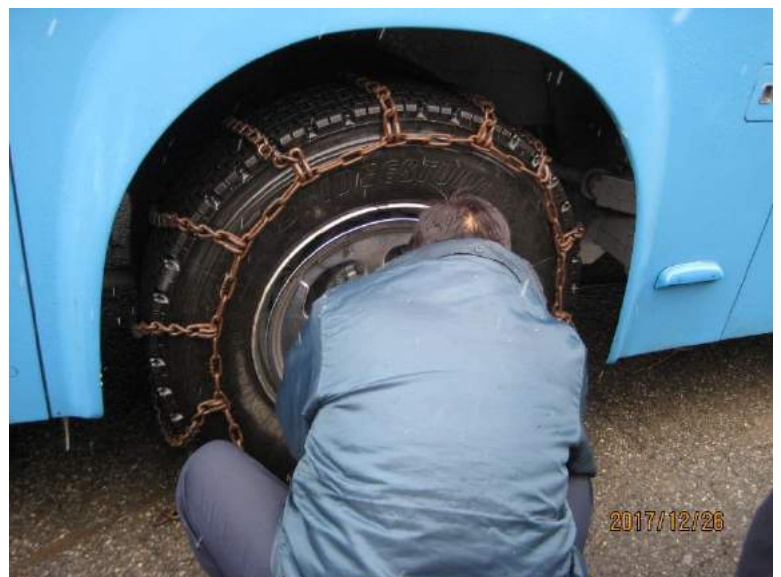


まずは絡まったチェーンを伸ばします。途中で捻じれたまま付けると、大きな音がしたりチェーンが切れる原因にもなります。走行中にチェーンが切れると坂を上げなくなるだけでなく、切れたチェーンが車体を叩いて車体が傷だらけになる惨事もあります。

次に、チェーンをタイヤの上に乗せます。大型車はタイヤが大きいので、当然チェーンも大きいです。

チェーンが大きくなれば当然のように重くなります。腕の力だけで上げようとする大変ですが、足の力を使って上げれば腕力の少ない人でも大丈夫です。今回、2名の女性運転士も参加しましたが、ちゃんと付けられる様になりました。

タイヤに乗せたら少しバスを動かして、チェーンがタイヤを1周するようにします。



内側と外側のフックを掛けて、外側にバンドを掛けて終わりです。このバンドも最後の方は力が必要ですが、これもコツを覚えれば大丈夫です。

山の上まで来ると路面も完全に圧雪になりました。

さて、ここからがスキー研修での1番の課題『ダブルチェーンの脱着』です。



ダブルチェーンとは
大型車は後輪が片側2本ずつ付いています。通常の(シングル)チェーンは外側のタイヤに付けます。しかし、積雪が多くなると空回りして進めなくなります。その時に使用するのがダブルチェーンです。下の写真の様に両側のタイヤに掛けるものです。横のチェーンの位置がずれてるので、より空回りしにくくなってい

路面が雪とアスファルトでは作業のしやすさは全然違います。更に降雪と低温。ダブルチェーンの場合は重い上に奥のタイヤにもかけなければならないので、作業も大変です。過酷な条件で研修をすれば、現場で作業する時は楽な気持ちで臨めるでしょう。





作業の障害になるのは天候だけではなくではありません。タイヤの周りに付いた雪が溶けて、ポタポタと攻撃される事もあります。研修では左の様な完全装備も可能ですが、現実では運転をしながらチェーンの脱着を速やかに行わなければならないので、完全装備をしている余裕はないですね。

全員が出来る様になる為に、付けては外しを繰り返し行いました。女性運転士2名も出来る様になりました。

その後は、奥美濃のスキー場4か所を巡って本社に帰ってきました。17時50分 入庫
汚れたバスは洗車機で大体はきれいになりますが、残りは手作業です。20名もいれば早いです。



中には研修で初めてチェーンを付けたという運転士もいますが、こうした経験を経て冬の雪道に独り立ちしていきます。

スキーバスに乗った際には、運転士達の華麗(?)なチェーン脱着にも注目してみてください。